

第三章 取組事例紹介

1

さくら市役所（市営もとゆ温泉）



設 立：平成17年3月28日

従業員数：342人（令和6年4月1日時点）

事業内容：行政事務

所 在 地：氏家2771番地

資 本 金：－

業 種：公務

U R L：<https://www.city.tochigi-sakura.lg.jp>



バイオマスペレットを燃料とするバイオマスボイラーを市営温泉施設へ導入。市内耕作放棄地を活用して育てられたバイオマス植物のペレットを活用することで燃料の地産地消を達成。灯油全量がバイオマス燃料へ転換され、年間200t-CO₂の削減効果。令和元年にバイオマス産業都市構想を策定し、国のバイオマス産業都市に選定される。



もとゆ温泉露天風呂



バイオマス燃料ボイラー



バイオマスペレット燃焼状況

きっかけ

◆耕作放棄地対策から

市内企業が耕作放棄地にバイオマス植物（エリアンサス）を栽培することに成功したことがきっかけ。エリアンサスを地域自給燃料として事業化を検討したことから。

外部支援・認証等

◆国庫補助

「再生可能エネルギー電気・熱自立的普及促進事業（2/3）」

◆バイオマス産業都市構想（R元）

令和元年にバイオマス産業都市に選定

取組の成果・良かったこと・今後の展望など

●環境面での効果

- ・灯油全量がバイオマス燃料に転換され、GHG排出量200t-CO₂が削減。
- ・環境に配慮した施設として、利用者からも好評。
- ・燃料の地産地消で運輸コストも削減。

●経費削減効果

・昨今の燃料費高騰により燃料コストは切り替え前と比較し、同程度となっている。重油価格の高騰に左右されず、安定した運営が可能となった。

●PR効果

・エリアンサスを燃料とするボイラー導入は珍しく、マスコミなどで先進事例として取り上げられるなど広く周知された。対外的なPR効果により多くの視察を受け入れている。



設 立：昭和25年4月25日
 従業員数：113人（2025年10月時点）
 事業内容：自動車部品及び航空関連部品の製造
 所 在 地：氏家1256番地
 資 本 金：5,000万円
 業 種：製造業
 U R L：<https://www.yuhara.co.jp/>



エコアクション21認証を取得。環境経営レポート作成のための情報収集を行い事業所のLED更新と空調設備更新を実現。

2023年度には県モデル事業の「製造工程脱炭素化促進アドバイザー派遣事業」が採択され、オイルミスト集中局所集塵設備を県補助を活用し導入した。温室効果ガス削減に取り組んでいる。



県モデル事業
オイルミスト集中局所集塵設備



オイルミスト集塵機と
LED照明



オイルミスト集塵機とLED
照明

きっかけ

自社の企業価値向上及び地域社会貢献のため、トップダウンにより環境エコアクション21を取得し、県モデル事業の採択となり、自社の脱炭素化が促進。

従業員個人が脱炭素への取組の意識向上を図るとともに、会社全体として更なる効果実現を目指す。

外部支援・認証等

◆エコアクション21（2011年）

「再生可能エネルギー電気・熱自立的普及促進事業（2/3）」

◆県補助（2023年、2024年）

製造工程脱炭素化促進アドバイザー派遣事業
製造工程脱炭素化促進モデル創出補助金

取組の成果・良かったこと・今後の展望など

【オイルミスト集中局所集塵設備導入】⇒作業環境の改善による省エネ、温室効果ガスの削減課題

- 工作機1台ごとに集塵機を設置、1台の消費電力は小さいが、全体では大きな電力を消費。
- 年1回/台のメンテナンスの手間がかかる。
- 工作機の隙間から漏れたオイルミストが工場内の作業環境を悪化させ、視界不良や床の滑りなど安全面に影響。

解決策・効果

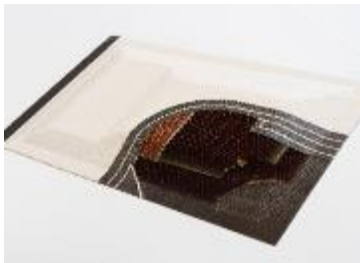
- 工作機66台の7ラインに集中局所集塵機を設置し、CO2排出量の削減及び作業環境の改善を図ることが出来た。
- 設備導入により従前の集塵機と比較し、51%のCO2排出量削減効果あり。



設 立：平成4年6月1日
 従業員数：76人（2025年10月時点）
 事業内容：航空機複合材部品の製造
 所 在 地：押上353番地1
 資 本 金：3,000万円
 業 種：製造業
 U R L：<https://acm-tochigi.co.jp/>



とちぎサステナブル・フロンティア企業認定。製造工程において、従来は埋め立て用産業廃棄物として廃棄されていた炭素繊維複合材の端材を、特殊鋼メーカーでの製造過程で化石燃料に変わる還元材や昇熱材として再利用を実現。産業廃棄物処分量の削減に貢献するとともに、化石燃料に頼らない資源循環型社会の実現することで、地球温暖化に貢献している。



炭素繊維複合材の構造



廃棄されていた
複合材部品の端材



航空機複合材部品
(B737昇降舵の外板)

きっかけ

・従来、多額の費用を支払って産廃処理をしていたが、産廃のリサイクル化を取引先である株式会社SUBARUと検討し、従業員のモチベーションや企業価値向上のため、各認定を取得したうえで、CO2削減促進を目指すことになった。

外部支援・認証等

- ◆とちぎサステナブル・フロンティア企業認定（令和5年）
「航空機部品製造過程で生じる炭素繊維複合材料廃棄物のリサイクル」
- ◆とちぎSDGs推進企業（令和5年）

取組の成果・良かったこと・今後の展望など

・従来は、リサイクル材料としてトラック1台分を業者へ出荷していたが、端材のサイズ等作業性の問題が提起され、現在は還元材・昇熱材として特殊鋼メーカーへリサイクル出荷（令和7年10月時点のリサイクル実績21t）。

- ・令和4年8月に「省エネお助け隊」の診断等を実施し、以下とおり省エネ・節電の取組を実施。
 - ①材料保管を-22℃設定の冷凍庫から、-18℃設定と-22℃設定の冷凍庫に分別・保管・管理を実施
 - ②空調管理が必要な作業エリアのレイアウトを変更し、不必要なエリアを閉鎖
 - ③複合材成型に必要な硬化作業は最大数を同時硬化するよう、作業計画を改善
 - ④コンプレッサーの常時2台稼働から1台のみとし、必要時にはもう1台を手動で稼働
 - ⑤蛍光灯をすべてLEDに更新。

令和6年2月にはその取組状況が評価され「関東地区電気使用合理化委員会最優秀賞」を受賞。
 ・現在塩谷工場の生産棟の1棟にのみ太陽光発電パネルを設置。その他の生産棟は構造上、太陽光パネルの設置不可であることから、ペロブスカイト太陽光電池等の設置を今後検討する予定。
 上記取組に加え、平行してCO2削減活動は継続しており、従業員のモチベーション向上や、取引先からのイメージアップにつながっていると感じている。



設 立：昭和46年7月2日
 従業員数：107人（2025年2月時点）
 事業内容：機械板金加工・福祉機器の開発 製造 販売
 所 在 地：喜連川1114番地
 資 本 金：5,000万円
 業 種：製造業
 U R L：<https://syntex.co.jp/>



栃木県事業者用太陽光発電設備等導入支援事業費補助金を活用し太陽光発電設備・蓄電池を導入。併せて、社内の電力使用量をモニターできるデマンド監視装置を導入することで、生産コスト削減とBCP対策を両立。



大型加工設備
(ACIES12TAJ)



太陽光発電システム（本社）



太陽光発電システム（新設工場）

きっかけ

◆燃料費高騰と防災意識向上から

大型加工設備には多くの電力が求められるが、昨今の燃料費高騰も相まって生産コストが増加していた。コスト削減効果と防災対策を両立できる太陽光発電設備と蓄電池設置を検討した。

外部支援・認証等

◆栃木県事業者用太陽光発電設備等導入支援事業費補助金（太陽光:5万円/kW、蓄電池:対象経費の1/3）

◆とちぎSDGs推進企業（令和3年）

◆とちぎサステナブル・フロンティア企業（令和5年度）

◆足利銀行とPIF契約を締結

取組の成果・良かったこと・今後の展望など

【自社のエネルギーコスト削減に成功】

・燃料費高騰の影響で、製品の加工に関わるコスト増が懸念されていたが再生可能エネルギーを活用することでコスト低減に繋がった。また、県補助の活用で投資回収期間の短縮に成功。

・蓄電池導入により災害・停電時に応急対応が可能となる副次的効果。（BCP対策）

【とちぎサステナブル・フロンティア企業認定】

●企業ブランド力の向上

・とちぎSDGs推進企業の取得を通じ企業内の環境意識が向上し、とちぎサステナブル・フロンティア企業認定につながった。再生可能エネルギーを活用するほか、材料歩留まり率の目標値を設定することで、産業廃棄物を少なくしサステナブルな製品製造を心がけている。その結果、企業イメージ、魅力度向上に役立っている。



設 立：昭和50年4月
 従業員数：56人（2025年6月時点）
 事業内容：土木工事の請負及び施工、舗装工事の請負及び施工
 所 在 地：押上1065番地
 資 本 金：3,000万円
 業 種：土木・建設業
 U R L：https://satoken1977.com/



中小企業版(SME)SBTの認証取得。事業活動におけるGHG(温室効果ガス)の排出量の見える化と、パリ協定に基づく削減目標を設定し。これからの企業運営において、事業における排出量に注視しながら、脱炭素経営を推進し、カーボンニュートラルの実現に向けて社員一丸で取り組んでいく。



太陽光発電
クリーンエネルギーの活用



ハイブリッド重機
環境に配慮した施工



ICT施工
効率化による環境負荷低減

きっかけ

以前から環境意識を持った経営を推進していましたが、この取り組みを数値的に管理し、業務に活用する機会を模索していました。対外的に発信し、環境企業としてアピールし、今後の持続的発展に繋げていきたく、SBT認証を取得しました。

外部支援・認証等

- ◆ISO9001:2015 / 14001:2015認証登録
- ◆とちぎSDGs推進企業（令和4年）
- ◆栃木県エコキーパー事業所認定（令和5年）
- ◆さくら市脱炭素経営推進事業者支援補助金
- ◆県中小企業向けSBT認定取得支援補助金

取組の成果・良かったこと・今後の展望など

■取組の成果

・CO2排出量の見える化

排出量を数値化したことにより、目標値の設定、現状の課題、今後の改善効果がわかりやすくなり、環境問題への意識活動が加速しました。

・省エネ改善の実施・コストの削減

空調機器の温度設定を見直したことにより、電力量の削減につながりました。

・人財育成

社員が省エネに対してより高い意識をもち、積極的に省エネ改善に取り組む様になりました。

・環境企業としてのアピール

認証マークをホームページや名刺に掲載することにより、お客様にも興味を持っていただけるようになりました。

■今後の展望

環境企業としてこれからも社会、地域に貢献していきます。



お役立ちリンク

さくら市では、脱炭素経営支援に係るリンク集を市の公式HPに掲載しています！是非ご覧ください！



まとめ

脱炭素に向けて上手くリソースを活用し、
環境だけでなくお財布にも優しい取組を
一緒に進めていきましょう！

さくら市では2050年に
二酸化炭素排出量実質ゼロ達成に向けて、
普及啓発を進めてまいります。
よろしくお願いいたします。



ご質問がある方はこちらまでご連絡ください
さくら市役所 市民生活部 生活環境課 環境保全係
TEL : 028 - 681 - 1126